



2004年01月20日

**フォルクスワーゲン レーストゥアレグ
“テレフォニカ・ダカール 2004”に鮮烈デビュー
総合6位、及び17位と目標を大きく超える結果**

ウォルフスブルグ発：

26回目を迎えた“テレフォニカ・ダカール 2004”において、フォルクスワーゲン ワークス チーム率いる2台の新設計の四輪駆動モデル、“レーストゥアレグ”が11,000kmを完全走破。ブルーノ サビー(1993年のダカール優勝ドライバー)が総合で6位、ユッタ クラインシュミット(2001年の優勝ドライバー)が第16ステージにおいて区間トップでゴールし総合17位、と上位入賞を果たし、当初の目標であった完走を大きく上回る鮮やかなデビューを飾りました。チーム監督のクリスニッセンは「2台のレーストゥアレグがゴールへ到達するという目的を完遂出来て、非常に満足している。総合で6位、また各ステージで素晴らしい成績を残すことが出来たのは、レーストゥアレグのコンセプト及びフォルクスワーゲンの取り組みが正しかった事を証明している。また最終日前日にクラインシュミットが区間トップでゴールした事は、我々の期待を上回る結果であった。極めて高いモチベーションを持って挑んだチームに対する最高のご褒美となり、また将来をも暗示してくれている。」と喜びのコメントを発表しました。

レース結果：

ドライバー	累計タイム	総合成績 (全出走142台)	グループ2.2 (出走46台)
ブルーノ サビー	60時間41分40秒 (トップとの差：6時間54分03秒)	総合6位	2位
ユッタ クラインシュミット	74時間35分07秒 (トップとの差：20時間47分30秒)	総合17位	6位

グループ2.2: スーパープロダクション、ディーゼル4輪駆動車

高い信頼性：

リタイヤ率が57%にも達する今回の過酷なラリーにおいて、開発期間がわずか7ヶ月未満という記録的な短期間で完成したレーストゥアレグでしたが、結果的に最も信頼性の高いレース車両となりました。技術的トラブルはほとんどが外的要因によるものでした。特に第6ステージの小川を越える際に、水深1mを超える見えない深みにはまりエンジンストールを起こしたクラインシュミットは、一時123位迄後退しましたが、その後上位に食い込む激しい追い上げにより、ステージ優勝を飾るなど素晴らしい走りを披露しました。フォルクスワーゲンは全参戦ワークス中唯一、参戦競技車両全て(2台)がゴールするという快挙を成し遂げました。

ユッタ クラインシュミットは「私の経験したダカールラリーの中でも、今年のレースは過去最も厳しいレースの一つでした。結果に対しては大変満足しています。良い結果はチーム全体を励ますと同時に、このクルマが持つポテンシャルを証明する事が出来たから。」と語りました。

一方ブルーノ サビーは「ダカールへ新参のワークスが、新開発の車両で総合6位に入ることは並大抵の事ではありません。レーストゥアレグの強さは開発テスト中に感じていましたが、それが今証明されました。各スタッフが高いレベルで仕事をし、チームが一丸となり成功のために最善を尽くした結果です。」と語りました。